



2011年5月20日発行 (季刊)

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社  
〒160-0021 新宿区歌舞伎町 2-19-13 A S K ビル 601  
TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202

E-mail [npo@hitomachi.org](mailto:npo@hitomachi.org) URL : <http://www.hitomachi.org>  
郵便振替口座 00170-6-410791 市民シンクタンクひと・まち社

## 東日本大震災に思う

東日本大震災から2ヶ月が過ぎた。想像を絶する広範囲の津波の被害、さらには原発の事故が被害の規模を拡大させ、いまだに避難所生活を続ける方が多数いることに心を痛める。被災なさった皆様から比べると申し訳ないくらいではあるが、我が家では3年半ほど前に隣家からの出火が原因でミニ被災を体験した。突然に住む家を無くすことは、人から考える力も気力も奪ってしまう。1日も早く、安心してゆっくりと休める住まいを確保できるように、心より願っている。

今回の震災では、食品の包材や機械の部品など多くのものが被災地域に依存していることを知らされた。そして安全とされてきた原発の事故で、前代未聞の計画停電が行われ、首都圏は大混乱した。必要外の照明が消され、地下街は薄暗い。けれど、外国の照明はこのくらいのもではないか。これまであまりに電気を使いすぎたのではないか。電力会社は電力需要のピーク時にあわせて発電所を整備している。日中のピークとなる消費電力を抑えることができれば、電力政策の見直しにつながる。日中に発電する太陽光発電はまさにピークカットに最適である。

2年半前、建て直した我が家ようやく念願の太陽光発電を設置することができた。これまでの我が家の太陽光発電の積算発電量は12,374kwである。日中の発電量の半分以上7,376kwを売電し、朝晩・夜間に20,086kwを買電し、削減したCO2は2,227kgだったということが一目瞭然に分かるような室内パネルが開発されている。

停電時には専用コンセントを接続して自立運転に切り替えることができるようになっているので、日中の発電中は、大きな電力を消費するものやパソコンなど安定的な電力を必要とする機器の使用には向かないが、冷蔵庫などの電源を確保することができる。

震災以来、必要のない電気をこまめに消したり、待機電力にも気を付けるなど節電に努めているが、月別データで比較してみると、昨年同月より10～15%の節電につながっている。これなら少しがんばれば15%の節電は実現可能ではないかと思っている。広い範囲に広がる放射能は、見えないし感じないだけに、今後どういう影響が現れるのか分からず、人々の不安をいっそうかき立てる。はたして安定的な電力供給のために、これからも原発に頼るべきなのか、世界中がその見直しを迫られている。今こそ、一人ひとりが節電につとめ、生活を見直し、小規模な自然エネルギーの利用と普及を図る時なのではないだろうか。

最後に、先日、臨床心理士の方に「心の問題は安全感(安心感)が出てから発生する」という話を伺った。大きな震災では、被災地でなくても多くの人が動揺し、大きな不安を感じる。安心感が出はじめる今からが心の問題が顕著になってくるのだそうだ。震災は身近な人の心にも思わぬ影響を及ぼしているかもしれない。そのことを心に留めておくことが必要だ。

NPO 法人 市民シンクタンクひと・まち社 理事  
事務局長 松浦 恵理子